

創造から新天新地へー24章でたどる神の救済史

20章 「復活ー新創造の始まり」

ヨハネの福音書 20章

はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造ー神は良い世界を造られた。
- ②墮落ー罪によって死が世界に入った。
- ③契約の歴史ー神は救済計画を進められた。
- ④メシア到来ー約束の救い主が来られた。
- ⑤御国の提示ーイエスは御国を宣言された。
- ⑥イスラエルの拒絶ー宗教指導者たちはメシアを退けた。
- ⑦新しい契約ー過越の成就である。
- ⑧十字架ー救済計画の中心である。

(2) ヨハ 20章の意味

- ①十字架によって贖いは完了した。
- ②ヨハ 20章は、その結果としての「新しいのち」の開始を描く。
- ③テーマは「復活＝新創造の始まり」である。
- ④ヨハネは創世記1章との対応を意識している。
- ⑤「週の初めの日」＝新しい創造の第一日

命題：イエスの復活は歴史的事実である。

目撃者の証言がそれを証明している。

I. 墓が空になっていたという証言 (1～10節)

1. マグダラのマリアの訪問 (1節)

**Joh 20:1** さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。

- ①まだ暗いうちに墓にやって来た。
- ②石が取り除かれているのを見た。

2. ペテロと「もう一人の弟子」 (2～9節)

**Joh 20:6** 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。

**Joh 20:7** イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

- ①ヨハネの方が先に到着。

- ②しかしペテロが先に墓に入る。
- ③亜麻布と頭布の配置が重要。
- ④復活は「盗難」ではない。
- ⑤秩序ある状況が復活の事実性を示す。

### 3. 信仰の萌芽 (8~10節)

- ①ヨハネは「見て信じた」。
- ②しかしまだ完全な理解には至っていない。

## II. マグダラのマリアの証言 (11~18節)

### 1. 悲しみの中の探求 (11~13節)

**Joh 20:13** 彼らはマリアに言った。「女の方、なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません。」

- ①墓の外で泣いている。
- ②天使との対話。

### 2. 復活の主との出会い (14~16節)

**Joh 20:16** イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り向いて、ヘブル語で「ラボニ」、すなわち「先生」とイエスに言った。

- ①最初は気づかない。
- ②「マリア」と呼ばれて認識する。
- ③羊は牧者の声を知る (ヨハ10章との対応)。

### 3. 新しい関係の宣言 (17節)

**Joh 20:17** イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

- ①「わたしにすがりついてはいけない」
- ②「わたしの父はあなたがたの父」

### 4. 証人としての派遣 (18節)

**Joh 20:18** マグダラのマリアは行って、弟子たちに「私は主を見ました」と言い、主が自分にこれらのことを話されたと伝えた。

- ①最初の復活の証人は女性。
- ②創作なら、女性を証人にはしない。

### III. 弟子たちの証言 (19~23節)

**Joh 20:19** その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

**Joh 20:20** こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

**Joh 20:21** イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

#### 1. 恐れの中の弟子たち (19節)

①戸を閉めて隠れている。

#### 2. 平安の宣言 (19~21節)

①「平安があなたがたにあるように」

②十字架の結果としての平安

#### 3. 派遣の使命 (21節)

①「父がわたしを遣わしたように」

②教会の宣教の原型

#### 4. 聖霊の付与 (22節)

**Joh 20:22** こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

①息を吹きかける。

②創世記2章との対応

③これは「新創造の象徴的行為」である。

④また、ペンテコステの予告的行為である。

#### 5. 罪の赦しの権威 (23節)

**Joh 20:23** あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

①福音宣教に伴う宣言的権威が与えられる。

### IV. トマスの証言 (24~29節)

#### 1. 疑うトマス (24~25節)

**Joh 20:24** 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

**Joh 20:25** そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

①経験主義的信仰

2. トマスへの顕現 (26~27節)

**Joh 20:26** 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

**Joh 20:27** それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

①8日後に再び現れる

②個人的対応

3. 最高の信仰告白 (28節)

①「私の主、私の神よ」

②ヨハネ福音書のクライマックス的宣言

4. 見ずに信じる信仰 (29節)

**Joh 20:29** イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

①教会時代の信仰の本質

今日の信者への適用

- (1) 私たちの信仰は空の墓に基づく歴史的信仰である。
- (2) 復活は単なる奇跡ではなく「新しいいのちの開始」である。
- (3) 恐れの中にいる者に主は「平安」を与えられる。
- (4) 見ずに信じる信仰が祝福される。

創造から新天新地へ—24章でたどる神の救済史  
21章 「教会の誕生—聖霊による新しい共同体」  
使徒の働き 2章

はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造 — 神は良い世界を造られた。
- ②墮落 — 罪によって死が世界に入った。
- ③契約の歴史 — 神は救済計画を進められた。
- ④メシア到来 — 約束の救い主が来られた。
- ⑤御国の提示 — イエスは御国を宣言された。
- ⑥イスラエルの拒絶 — 宗教指導者たちはメシアを退けた。
- ⑦新しい契約—過越の成就である。
- ⑧十字架—救済計画の中心である。
- ⑨復活—新創造が開始された。

(2) 使2章の意味

- ①教会の誕生という決定的転換点を記す章である。
- ②「教会時代の開始」を示す極めて重要な章である。
- ③教会は、人間が作ったものではなく、超自然的に誕生したものである。

命題：使2章は教会の本質とは何かを教えている。

聖霊の降臨、福音の宣教、宣教の実を見れば、それが分かる。

I. 聖霊の降臨(1~13節)

Act 2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

1. 五旬節という時

(1) ユダヤの三大祭りの一つ

- ①シナイ山での律法の付与を記念する祭りである。
- ②五旬節の日は、「キリストの律法」が与えられた日となった。

2. 超自然的出来事

(1) 聖霊の可視的現象

- ①「激しい風が吹いて来たような響き」
- ②「炎のような舌」
- ③12使徒たちは、異言(外国語)で神の大きなみわざを語る。

\*ここでの異言は、既存の外国語であり、理解可能な言語である。

Act 2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

④「皆」とは、文脈上「12使徒たち」である。

(2) ディスペンセーション的意義

- ①聖霊の内住が普遍化(ヨハ14:17の成就)
- ②教会の誕生(キリストのからだの形成開始)
- ③人間の組織ではなく、神の超自然的介入によって始まった共同体

(3) 人々の反応

- ①驚きと困惑(自分たちの国のことばを聞いた)
- ②嘲り(「新しいぶどう酒に酔っている」)

II. 福音の宣教(14~36節)

1. ペテロの説教(出来事の神学的解釈)

(1) 誤解の否定

- ①酔っているのではない(午前9時)。

(2) ヨエル預言の成就

- ①終わりの日における御霊の注ぎ
- ②しるしと裁きの予告
- ③「部分的成就」または「予型的成就」であり、完全成就是将来(患難期)

(3) イエスの生涯と十字架

Act 2:22 イスラエルの皆さん、これらのことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議としるしを行い、それによって、あなたがたにこの方を証しされました。それは、あなたがた自身をご承知のことです。

Act 2:23 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。

Act 2:24 しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。

- ①神の計画による死
- ②人間の責任
- ③復活による勝利

\*神の主権と人間の責務のバランス

(4) 詩篇による復活の証明

Act 2:27 あなたは、私のたましいをよみに捨て置かず、／あなたにある敬虔な者に／滅びをお見せにならないからです。

- ①詩 16 篇の引用
- ②ダビデ契約を成就するために、メシアは復活しなければならない。
- ③メシアはダビデの王座に座る。
- ④ダビデは死んで墓にある。
- ⑤この預言は、メシアの復活について語っている。

(5) 昇天と聖霊降臨の関係

Act 2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。

- ①イエスは、神の右の座に着座された。
- ②イエスは、聖霊の注ぎの源とられた。

2. ペテロの説教の結論

Act 2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

(1) 福音の三要素

- ①罪のための死
- ②葬り
- ③三日目の復活

(2) イエス・キリストをそのような方として信じるのが救いの条件

III. 宣教の実 (37～47 節)

1. 最初の宣教の実

(1) 心を刺される。

Act 2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。

①聖霊による内的確信

(2) ペテロの招き

Act 2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

Act 2:39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

- ①悔い改めとバプテスマ
- ②バプテスマは救いの条件ではなく、信仰の外的表明

### (3) 三千人の回心

Act 2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

- ①教会の具体的誕生
- ②真の説教は必ず応答を生む。
- ③教会成長は神の働きによる。

## 2. 初代教会の姿

### (1) 四つの基本要素

- ①使徒たちの教えを守る。
- ②交わりを持つ。
- ③パンを裂く。
- ④祈りをする。

### (2) 共同体の生活

- ①恐れと奇跡
  - \* 聖典が完成するまでの移行期
  - \* 当時起こった現象がそのまま起こるわけではない。
- ②財産の共有（自発的）
- ③日々の礼拝と家庭集会

### (3) 結果

- ①民からの好意
- ②主が日々救われる人を加える。
- ③成長は「主が加える」ものである。

結論：今日の信者への適用



1. 聖霊の降臨からの適用

- (1) 聖霊の内住の自覚
- (2) クリスマン生活は「努力」ではなく「内住の御霊」によるもの。
- (3) 自分の力で生きようとしていないかを点検する必要がある。

2. 教会観の内容からの適用

- (1) 教会は、聖霊によって形成された有機体である。
- (2) 教会を「サービスを受ける場所」と考えていないか。
- (3) 私は教会の一部として機能しているだろうか。
- (4) 当時も、驚きと嘲りがあった。
- (5) 聖霊に満たされた歩みは、必ずしも世に理解されない。
- (6) 人の評価を恐れて、信仰を隠していないか。

3. 福音の宣教からの適用

- (1) ペテロの説教は極めてシンプルである。
- (2) 福音の三要素
  - ①キリストの死
  - ②葬り
  - ③復活
- (3) 福音に余計な条件を付け加えていないか。
- (4) 逆に、福音を曖昧にしていないか。

4. 教会とは、聖霊によって生かされ、福音によって形成され、神によって成長させられる共同体である

創造から新天新地へー24章でたどる神の救済史

22章 「信仰義認ー神の義の啓示」

ローマ人への手紙3章

はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造ー神は良い世界を造られた。
- ②墮落ー罪によって死が世界に入った。
- ③契約の歴史ー神は救済計画を進められた。
- ④メシア到来ー約束の救い主が来られた。
- ⑤御国の提示ーイエスは御国を宣言された。
- ⑥イスラエルの拒絶ー宗教指導者たちはメシアを退けた。
- ⑦新しい契約ー過越の成就である。
- ⑧十字架ー救済計画の中心である。
- ⑨復活ー新創造が開始された。
- ⑩聖霊降臨ー教会の誕生は決定的転換点となった。

(2) ロマ3章の意義

- ①人間論：全人類は罪の下にある（完全な墮落）。
- ②律法論：律法は義認の手段ではなく、罪の認識の手段。
- ③救済論：義認は恵みにより、信仰によって与えられる。
- ④キリスト論：十字架は神の義と愛の交差点。
- ⑤神論：神は義でありつつ、義とする方である。

命題：信仰義認が唯一の救いの道である。

この章を4区分して学ぶと、そのことが分かる。

I. ユダヤ人の特権と神の真実（1～8節）

1. ユダヤ人の優位性とは何か（1～2節）

- (1) いくつもあるが、パウロは一つだけ挙げている。

Rom 3:2 あらゆる点から見て、それは大いにあります。第一に、彼らは神のことばを委ねられました。

- ①神のことば（神の託宣）を委ねられたこと。
- ②これは契約の民としての特権である。

2. 人間の不信仰と神の真実（3～4節）

- (1) しかし、ユダヤ人は神の期待に応えることができなかった。

①人の不信仰は神の真実を無効にするのか。

Rom 3:4 決してそんなことはありません。たとえすべての人が偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。／「それゆえ、あなたが告げるとき、／あなたは正しくあられ、／さばくとき、勝利を得られます」／と書いてあるとおりです。

②詩篇 51 篇の引用 (ダビデの悔い改め)

### 3. 神の義と人間の罪の誤解 (5～8 節)

(1) 「罪が神の義を際立たせるなら罪を犯してよいのか」という誤謬

①パウロの結論：断じて否 (μὴ γένοιτο)

②神の義は罪を正当化しない

## II. 全人類の罪の普遍性 (9～20 節)

### 1. ユダヤ人も異邦人もすべて罪の下にある (9 節)

Rom 3:9 では、どうなのでしょう。私たちにすぐれているところはあるのでしょうか。全くありません。私たちがすでに指摘したように、ユダヤ人もギリシア人も、すべての人が罪の下にあるからです。

(1) 「すべての人は罪の下にある」

①普遍的墮落

### 2. 旧約聖書による罪の総括 (10～18 節)

(1) 詩篇・イザヤ書からの連続引用

①義人はいない (10～12 節)

②言葉の罪 (13～14 節)

③行為の罪 (15～17 節)

④神への恐れの欠如 (18 節)

### 3. 律法の役割 (19～20 節)

Rom 3:19 私たちは知っています。律法が言うことはみな、律法の下にある者たちに対して語られているのです。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。

Rom 3:20 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。

①律法は「口を封じる」ためのもの。

②律法によって罪の自覚が生じる。

③律法の行いによって義とされる者はいない。

### III. 神の義の啓示 (21~26節)

#### 1. 律法とは別に現された神の義 (21節)

Rom 3:21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

##### (1) 律法と預言者が証ししている義

###### ①旧約との連続性

#### 2. 信仰による義 (22~23節)

Rom 3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

Rom 3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

###### ①イエス・キリストを信じる信仰による義

###### ②「すべての人は罪を犯している」

###### ③義認の普遍的必要

#### 3. 贖いと恵みによる義認 (24節)

Rom 3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

###### ①「価なしに義と認められる」

###### ②「キリスト・イエスによる贖いを通して」

#### 4. 宥めのささげ物 (ヒラステリオン) (25節)

Rom 3:25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

###### ①神はキリストを公に示された。

###### ②血による宥めのささげ物

###### ③神の義の現れ (罪の見逃しとの関係)

#### 5. 神の義と義認の両立 (26節)

###### ①神は義でありつつ、信じる者を義とされる。

###### ②十字架における神の義の完全な解決

### IV. 信仰による義認と律法の関係 (27~31節)

#### 1. 誇りの排除 (27~28節)

###### ①行いではなく信仰の原理

②「人は律法の行いとは別に信仰によって義とされる」

2. 神はすべての人の神 (29～30 節)

Rom 3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。

Rom 3:30 神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。

- ①ユダヤ人だけでなく異邦人の神でもある。
- ②割礼の有無に関係なく信仰によって義認

3. 律法の確立 (31 節)

Rom 3:31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

- ①信仰は律法を無効にしない。
- ②むしろ律法を確立する。

結論：今日の信者への適用

- 1. 自分の義ではなく、キリストの義に立つべきである。
  - (1) 信仰生活の中心は「受け取ること」。
- 2. 罪の認識を深めることが福音理解を深める鍵である。
  - (1) 律法の正しい役割を理解する。
- 3. 誇りを捨て、恵みに生きるべきである。
  - (1) すべては神の恵みである、
- 4. 福音はすべての人に開かれているという確信を持つべきである。
  - (1) これが伝道の動機である。

創造から新天新地へー24章でたどる神の救済史

23章 「イスラエルの回復」

ローマ人への手紙 11章

はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造 — 神は良い世界を造られた。
- ②墮落 — 罪によって死が世界に入った。
- ③契約の歴史 — 神は救済計画を進められた。
- ④メシア到来 — 約束の救い主が来られた。
- ⑤御国の提示 — イエスは御国を宣言された。
- ⑥イスラエルの拒絶 — 宗教指導者たちはメシアを退けた。
- ⑦新しい契約—過越の成就である。
- ⑧十字架—救済計画の中心である。
- ⑨復活—新創造が開始された。
- ⑩聖霊降臨—教会の誕生は決定的転換点となった。
- ⑪信仰義認—これが唯一の救いの道である。

(2) ロマ 11 章の意義

- ①イスラエルの将来に関する決定的啓示
- ②神の契約の不可逆性の証明
- ③教会とイスラエルの区別の明確化
- ④終末論への橋渡し (千年王国の前提)
- ⑤9章は「神の選び」、10章は「イスラエルの責任」、11章は「イスラエルの将来」を扱う。

命題：神がイスラエルに与えた約束は必ず成就する。

そう確信する理由を4つ上げる。

I. 神はイスラエルを退けたわけではない (1~10節)

1. 否定の宣言 (1節)

Rom 11:1 それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。

- ①「決してそんなことはありません」
- ②パウロ自身がその証拠 (ユダヤ人信者)

③パウロはイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身。

## 2. 残れる者の原則 (2~6節)

Rom 11:4 しかし、神が彼に告げられたことは何だったのでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。これらの者は、バアルに膝をかがめなかった者たちである。」

Rom 11:5 ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。

- ①エリヤ時代の7000人の例
- ②「恵みによる選び」
- ③民族全体ではなく「残れる者(レムナント)」
- ④今の時代は、メシアニックジューたちが存在している。

## 3. 霊的鈍感の現実 (7~10節)

Rom 11:7 では、どうなのでしょう。イスラエルは追い求めていたものを手に入れず、選ばれた者たちが手に入れました。ほかの者たちは頑なにされたのです。

Rom 11:8 「神は今日に至るまで、彼らに鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられた」と書いてあるとおりです。

- ①選ばれた者は得た。
- ②他の者はかたくなにされた。
- ③民族的拒絶=完全な拒絶ではない。
- ④常に「信じるユダヤ人」が存在する。

## II. イスラエルのつまずきには目的がある (11~24節)

### 1. つまずきの目的 (11~15節)

Rom 11:11 それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。

Rom 11:12 彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょうか。

- ①イスラエルの失敗 → 異邦人の救い
- ②異邦人の救い → イスラエルにねたみを起こさせる
- ③神の二重目的：
  - \* 異邦人救済
  - \* イスラエルの回復への導き

## 2. オリーブの木の比喻 (16~24節)

Rom 11:17 枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、

Rom 11:18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

①根：アブラハム契約

②自然の枝：イスラエル

③野生の枝：異邦人

\* 異邦人は「接ぎ木」された存在

\* 異邦人の高ぶりへの警告

\* 置換神学の否定

## III. イスラエルの将来の回復が約束されている (25~32節)

### 1. 奥義の啓示 (25節)

Rom 11:25 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、

①イスラエルの一部はかたくなになった。

②異邦人の満ちる時まで。

### 2. 「こうして全イスラエルが救われる」 (26~27節)

Rom 11:26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。／「救い出す者がシオンから現れ、／ヤコブから不敬虔を除き去る。

Rom 11:27 これこそ、彼らと結ぶわたしの契約、／すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である」／と書いてあるとおりです。

①民族的・将来的救い

②メシアの再臨と結びつく

③民族的イスラエルの終末的回心

\* 終末時に生存している民族的イスラエル全体である。

### 3. 神の契約の不可逆性 (28~29節)

Rom 11:28 彼らは、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びに関して言えば、父祖たちのゆえに、神に愛されている者です。

Rom 11:29 神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。

①「賜物と召命は取り消されることがない」

②アブラハム契約の永続性



#### 4. すべてをあわれみに閉じ込めた神(30~32節)

Rom 11:32 神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです。

- ①ユダヤ人も異邦人も不従順
- ②すべてがあわれみによる救い

#### IV. 神の知恵への賛美がある(33~36節)

Rom 11:33 ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょうか。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょうか。

Rom 11:34 「だれが主の心を知っているのですか。／だれが主の助言者になったのですか。

Rom 11:35 だれがまず主に与え、／主から報いを受けるのですか。」

Rom 11:36 すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

- ①神の知恵と知識の深さ
- ②人間の理解を超える救済計画
- ③救済史全体は神の主権的計画である。
- ④神学のない礼拝はなく、礼拝のない神学もない。

#### 今日の信者への適用

##### 1. イスラエル論の理解

- ①イスラエルは完全に退けられていない。
- ②現在は部分的・一時的なかたくなさの時代。
- ③異邦人の救いは神の計画の一部。
- ④将来、民族的イスラエルは回復する。
- ⑤神の契約は取り消されない。

##### 2. 高ぶりの否定

- ①異邦人信者は「恵みによる接ぎ木」にすぎない。
- ②「栽培種の枝」に対して誇ってはならない。

##### 3. 神の契約への信頼

- ①神は約束を破らない。
- ②新しい契約はそのまま信頼できる。

4. 終末論の理解

- ①置換神学の拒否
- ②終末的回復への期待
- ③異邦人の救いがイスラエル回復に用いられる。

5. 神の主権への礼拝

- ①理解を超える神の計画を信頼する。

Rom 11:36 すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

創造から新天新地へ—24章でたどる神の救済史

24章 「新天新地」

黙示録21章

はじめに

(1) これまでの流れ(総まとめ)

- ①創造 — 神は完全な世界を創造された(創1~2章)。
- ②墮落 — 罪によって死と呪いが入った(創3章)。
- ③契約の歴史 — 神は回復の計画を段階的に啓示された。
- ④イスラエルの選び — メシアをもたらず民
- ⑤メシア到来 — 約束の成就
- ⑥十字架と復活 — 救済の完成をもたらず基礎
- ⑦教会時代 — 福音の拡大
- ⑧イスラエルの回復 — 神の契約の成就(ロマ11章)
- ⑨患難期 — 裁きと精錬
- ⑩千年王国 — メシア的王国の実現
- ⑪最後の裁き — 永遠の分離

(2) 黙示録21章の位置づけ

- ①救済史の最終段階(終末の完成)
- ②「回復」ではなく「新創造」である。
- ③創世記1~3章との完全な対比

命題：神の救済計画は新天新地において完全に成就する。

この章を3区分して完成した内容を確認する。

I. 新天新地の創造(1節)

Rev 21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

1. 第一の天と地の消滅

- (1) 罪によって汚染された被造世界の終焉
- (2) もはや海もない(混沌・分離の象徴の消滅)。
  - ①今の地球は、その大半が海で覆われているが、その海がなくなる。
  - ②千年王国には海が存在する。
  - ③新天新地では、「いのちの水の川」(黙22:1)が用意される。

2. 新創造の神学

- (1) 単なる修復ではなく「全く新しい創造」
- (2) 創世記1章の完全な回復と超越
  - ①「創造のやり直し」ではなく「完成形」である。

## II. 新しいエルサレムの降下(2~8節)

### 1. 都は「花嫁」として描かれる(2節)

Rev 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

- (1) 新しいエルサレムはすでに天にある。
  - ①教会=子羊の花嫁
  - ②天のエルサレムは、人格的共同体として描写される。

### 2. 神の幕屋が人とともにある(3~4節)

Rev 21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。／「見よ、神の幕屋が人々とともにある。／神は人々とともに住み、人々は神の民となる。／神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

Rev 21:4 神は彼らの目から／涙をことごとくぬぐい取ってくださる。／もはや死はなく、／悲しみも、叫び声も、苦しきもない。／以前のものが過ぎ去ったからである。」

- (1) インマヌエルの最終的成就
  - ①神の臨在の完全回復
  
- (2) 呪いの完全な除去
  - ①死・悲しみ・叫び・苦しみの消滅
  - ②創世記3章の逆転

### 3. 勝利者と不信者の対比(7~8節)

Rev 21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

Rev 21:8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」

- (1) 救われた者の相続
- (2) 火の池という永遠の裁き
  - ①第二の死

## III. 新エルサレムの詳細(9~27節)

1. 子羊の花嫁としての都 (9~10節)

Rev 21:9 また、最後の七つの災害で満ちた、あの七つの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」

Rev 21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとから、天から降って来るのを見せた。

(1) 教会の栄光の最終形態

- ①「子羊の妻である花嫁」とは、新エルサレムのことである。
- ②その意味は、この都が花嫁の住む場所になるということである。

(2) 新エルサレムは、天から下る都である。

2. 神の栄光に満ちた都 (11節)

Rev 21:11 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。

- (1) シャカイナ・グローリーの充満
- (2) 太陽も不要な光

3. イスラエルと教会の統合的完成 (12~14節)

- (1) 12の門=イスラエル12部族
- (2) 12の土台=使徒たち
- (3) 区別は保たれつつ統合される。

4. 完全性を示す構造 (15~17節)

(1) 立方体 (至聖所の拡大)

- ①1辺の長さは、1万2,000スタディオンの(2,200キロメートル以上)。
- ②象徴的な数字と解釈しなければならない理由は、何もない。
- ③これは、人類の歴史上最大の規模の都市である。
- ④あらゆる時代の聖徒たちが住むのに十分なスペースが確保できる。
- ⑤ソロモンの神殿の至聖所は、立方体であった(1列6:20)。
- ⑥この都は、永遠の至聖所としての役割を果たす。

5. 都の美しさ (18~21節)

- (1) 純金・宝石
- (2) 神の栄光の視覚化

6. 神と子羊が神殿である (22節)。

- (1) もはや仲介構造は不要
- (2) 直接的交わりの完成

7. 永遠の光と支配 (23~27節)

- (1) 神ご自身が光
- (2) 諸国民の歩み
  - ①諸国の民は、都の光によって歩む。
- (3) いのちの書に記された者のみが入る。

今日の信者への適用

1. 創世記との対比

- (1) 天と地の創造：新天新地
- (2) エデンの園：新エルサレム
- (3) 命の木：命の木の回復 (22章)
- (4) 神との断絶：神との完全な交わり
- (5) 呪い：呪いの消滅
- (6) 死の支配：死の消滅

2. 私たちの希望は「この地上」ではない。

- (1) 終着点は新天新地。
- (2) 地上的成功ではなく永遠的視点
- (3) 「花嫁」として整えられる生き方

3. 苦しみの意味

- (1) 今の苦しみは一時的。
- (2) やがて完全な回復が来る。

4. 伝道の緊急性

- (1) いのちの書に名があるかが決定的。
- (2) 今が恵みの時。

5. 創世記1章から黙示録21章まで、一本の線につながる。

- (1) 聖書が書かれた目的は「神の栄光」である。
- (2) 人類の救いは、その一部である。
- (3) 新天新地は「永遠の礼拝の場」である。
- (4) 今の礼拝はその前味である。